

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	知財見聞録, 北アフリカで魅惑的な存在感を漂わせるチュニジア共和国
Title(English)	
著者(和文)	田中義敏
Authors(English)	Yoshitoshi Tanaka
出典(和文)	発明, Vol. 115, No. 8, pp. 22-23
Citation(English)	THE INVENTION, Vol. 115, No. 8, pp. 22-23
発行日 / Pub. date	2018, 8



知財見聞録

北アフリカで魅惑的な存在感を漂わせるチュニジア共和国

東京工業大学 工学院 経営工学系・経営工学コース 教授 田中 義敏

初めての訪問は警戒態勢のなか

チュニジアでは長年の一党独裁政治に反旗を翻した、2010年末の退陣要求デモが全土に広がり、革命（民主化運動）により2011年に政権が交代した。筆者が初めて同国を訪れたのは、その年の11月に開催されたチュニジアー日本文化科学技術会議(TJASSST)に参加した時のことであった。

TJASSSTは2000年からチュニジアで開催され、日本と同国の自然科学、人文社会科学、工学を含む幅広い領域の研究交流の場として数多くの共同研究を生み出している。日本側の主催者は筑波大学地中海・北アフリカ研究センター（Alliance for Research on the Mediterranean and North Africa: ARENA）で、日本学術振興会、チュニジア共和国高等教育・科学研究省からの後援を得て運営している。

チュニジア共和国

チュニジア共和国は、北アフリカのほぼ中央、地中海沿岸のマグレブ地域に位置する共和制国家で、アフリカ連合、アラブ連盟、地中海連合、アラブ・マグレブ連合に加盟している。面積は北海道の約2倍、西にアルジェリア、南東にリビアと国境を接し、北と東は地中海に面している。人口約1140万人（2016年）、民族はアラブ人が98%、言語はアラビア語を公用語とし、フランス語も広く使われる。宗教

はイスラム教スンニ派が大半。

首都のチュニス市は商業・工業の中心地で、アフリカ有数の世界都市になっている。パリ経由でチュニス国際空港に降り立ち、そこからバス移動でたどり着いたチュニス市街は鉄条のバリケードやライフルを構えた兵士で物々しい雰囲気だった。

アラブの春の発祥地

チュニジアでは1988年の憲法改正により複数政党制が認められたが、2011年の政権崩壊まで与党・立憲民主連合（1988年まではその前身の社会主義憲政党）が事実上の一党支配を行っており、一度も政権交代はなされていなかった。

一青年の焼身自殺事件に端を発する反政府デモが国中に及び、2010年末に始まった退陣要求デモも全土に拡大するなか、軍部が離反。2011年1月14日には国外に脱出したベン＝アリー大統領の後任として、まずモハメッド・ガンヌーシ首相が暫定大統領就任を宣言したが、翌15日に憲法評議会は規定に基づき下院議長のアド・メバザを暫定大統領に任命した。23年間続いた政権が崩壊した事件であった。

この一連の事件がジャスミン革命と呼ばれている。そして、この民主化運動はチュニジアにとどまらず、エジプトなど他のアラブ諸国へも広がり、各国で長期独裁政権に対する国民の不満

が爆発して、数々の政変や政治改革を引き起こした。これら一連の動きが「アラブの春」と呼ばれた。

欧州とアフリカの間の好立地

チュニジアにとって最大の貿易パートナーは欧州連合であり、同国の輸入の72.5%、輸出の75%を占めている。地中海を隔てているものの、アフリカというよりはヨーロッパの一部といった感じである。日本企業もチュニジアに工場進出してヨーロッパ市場を狙う戦略はいかがだろうか？ 北はヨーロッパ市場、南は巨大アフリカ市場。以前に日本の某自動車メーカーに提案したが、工場進出はいまだに実現していないようである。

知的財産権制度

チュニジアでは産業技術省に設置されているNational Institute for Standardization and Industrial Property (INNORPI) が特許庁に当たり、特許、意匠、商標、集積回路の回路配置権の保護、植物新品種の保護を所管している。日本の制度から見ると、特異な点を挙げてみると、以下のとおり。

特許には審査請求制度がなく、全ての出願が審査対象になる。また、出願公開制度もなく、審査により特許性が認められると公開（公告）され、権利付与前の異議を受け付ける。出願公告日から2カ月以内に異議を申し立てる

ことができるが、これは特許庁に対してではなく裁判所への申立てとなる。また、無効審判制度はないが、利害関係人は権利期間中、無効の手続きを裁判所に申し立てることができる。さらに、実施義務が課され、出願から4年または特許付与から3年のいずれか長いほうの期間内に実施していなければ、不使用取り消しの対象となる。

意匠の新規性に関する判断基準としては「識別できる特異な形状を有する新規な意匠」という規定があるが、実体審査は行われず、方式要件および公開によって公序良俗違反の有無のみを審査する。無効審判制度はないが、利害関係人は権利期間中、無効の手続きを裁判所に申し立てることができる。

商標については、本国登録要件があり、チュニジアに非居住または事業所を有しない外国人は、本国での登録証

を提示しなければならない。出願が受理されると権利付与前の異議申立制度に付するために公開（公告）される。出願公告日から2カ月以内に異議申立てができるが、これは特許庁に対してではなく裁判所への手続きになる。また、無効審判制度はないが、利害関係人は権利期間中、無効の手続きを裁判所に申し立てることができる。登録日から5年間継続して不使用だった場合には、不使用取り消しの対象となる。

スタディーツアーへ

ローマ帝国時代の名残で、チュニジアには数々の遺跡がある。ドゥッガは、チュニジア北部に位置する北アフリカ最大のローマ遺跡で、劇場や神殿等がとても良い状態で残っている。

TJASSSTが開催されたハマメットの海岸沿いには、メディナ（旧市街）

を守るために築かれた要塞^{ようさい}があり、中には古い大砲も置いてあった。要塞の上からはハマメットの町とビーチを一望できる。その地域で暮らす人々を外敵から守るために城壁で囲まれた街（旧市街）を建設し、生活に必要なあらゆる施設を整備した。内部は左右を壁で囲まれた狭い迷路のようになり、うっかりすると道に迷ってしまう。メディナは、本来アラビア語で「町」を意味する普通名詞であり、北アフリカなどでは「旧市街」の意味で用いられ、この旧市街をイスラム社会ではメディナと呼ぶ。

タバルカの町から目に付くのはジェノバ^{じょうさい}の城塞。もともとはジェノバの銀行家によって建てられたそうだが、現在は軍が管理しており、中には入れなかった。タバルカは赤サンゴの産地として有名で、海岸沿いでは多くの露天商が客引きをしている。品質を見分けるにはそれなりの知識と観察眼が必要といわれ、露天商ではとても買うことができなかった。また、タバルカは、地中海の波で浸食されてできた針岩がそそり立っていることでも知られる。長い年月にわたる浸食によってできた独特の波模様の岩が実に芸術的だった。

北アフリカで存在感を示すチュニジア。謎めいた魅力を感じさせるものの、美しく、そして人々の心を癒してくれる国……、そんな印象を抱いて帰路についた。



ドゥッガにある遺跡の一部



地中海の波で浸食された岩（タバルカ）



高い壁に挟まれた迷路のようなメディナ